

谷太郎踊り



保存会名	谷地区太郎踊り保存会
所 在	三股町大字樺山 谷地区（町の行政区画では第2地区に含まれる）
奉納時期・場所	4月28日：谷「青年の家」敷地内の馬頭観音 4月29日：山王原早馬神社（元々、早馬神社の例祭は4月25日に行われており、奉納される郷土芸能は「二十五おどり」と言われていました） 4月30日：谷地区内（庭もどし）、馬頭観音

○由来

平成3年に発行された『三股の民俗芸能』（P.31）に、「踊りは、口伝によると文政3年の頃（1820年）に始まったと言う」とあります。文政3年は、江戸時代後期にあたりますが、この年代がどのような調査で『三股の民俗芸能』に記述されたのかは不明です。『三股町史』（昭和36年版）・『三股町史 改訂版』（昭和60年版）に「太郎踊り」の記述はあるものの、開始時期については触れていません。もちろん、郷土芸能については史料が残っていないことが多いので、不明ならば不明で構わないのですが、ここまではっきりと年代が書かれていますと、何かを参考にしたのではないかと考えられます。

○民俗芸能の分類

宮崎県内の民俗芸能は「神楽」「田楽」「風流」などが代表的で、太郎踊りは「田楽」に分類されます。田遊び系の芸能であり、基本的には、代かき・種まき・田植えなどの農作業をユーモラスに演じて五穀豊穡を祈ります。県内では、西諸県・北諸県に多く、例としては、えびの市西北方の「打植祭」、高原町狭野神社の「ベブがハホ」、都城市高木町春日神社の「ベブどん」、「太郎踊り」としては三股の他に、都城市太郎坊町・下水流町（ベブ踊り）、山之口町上富吉地区・麓地区などが挙げられます。

〔STORY〕

第1部 出端【では】

道楽（太鼓・三味線）の音楽に合わせて踊り子が入場し、神前で一礼します。その後、次男が「ホテ」（火のついた藁筒）を左手に、右手にオノを持ち先頭で現れ、その後三男と他の兄弟が唄を歌いながら二拍子の太郎リズムで踊って大きな輪を作ります。その中に長男が牛の手綱を引き、その後から父がスキ（鋤）をかつぎ、ムチ（竹イラサ）を持って登場します。母は父に寄り添います。

第2部 道化

①長男が三男に、ベブ（牛）が暴れるので、スキを掛けたいと言います。父は「はよやれ」と言います。

②ベブにスキを引かせてみると、スキが岩床（岩盤）に引っかかってしまいます。長男は三男にスキの横を掘ったらどうかと言い、三男は父の許可を取り、二人でスキの横を掘ります。「ひだー」と叫んでベブを動かそうとしますが、スキが岩に引っかかったまま動きません。長男は三男に頼んで、他の兄弟たちに「せんずまれ」と集合をかけます。兄弟たちが掘った後、もう一度ベブを動かそうとしますが、まだ動きません。そこで、もう一度兄弟たちを集めて掘らせます。今度はスキが岩から取れたので、長男と三男は「くろ きばれ！くろ きばれ！」とベブを動かして、スキで耕します。

③ここで、ベブが急に病気になってしまい、動かなくなってしまいます。三男は父に報告に行きますが、父は「ウンマがねおった？」ととぼけ、三男に「どもおんじょ」（もうろく親父の意か）と言われてしまいます。三男はベブを心配し、兄弟たちを集めます。そして、長男に「アンジョも伯楽心（獣医の心得）があいやっじゃが、ベブん脈でん取っみらんか」と言って牛の脈を取らせます。

④長男は、ベブの脈は心配ないと言い、千年昔のことわざにいいことを聞いたことがあると父に伝えます。父は早くやれと言い、長男はみんなを集めて、早馬様に願掛けの歌と踊りを始めます。しかし、ベブの病気は治らず、長男がもう一度脈を取り、今度は兄弟たちが踊り、長男が歌います。

⑤まだ、ベブの病気は治りません。今度は三男が脈を取り、脈は大丈夫と言い、父はもう一回しっかりやれと言い、長男が踊り、三男が歌い、他の兄弟も一緒に踊りつづけます。

⑥ここで、やっとベブの病気が治り、三男は早馬さんに願掛けて良かったよー、とみんなで笑い合います。

⑦そうしているうちに、ベブがいなくなり、長男と三男は探しに行きます。ベブは松林の中にいたようで、おーおー言いながら三男がベブに近づくとベブに突かれてしまいます。長男がその隙にベブの手綱を取り、三男も無事のようにです。

第3部 入端【いりは】

長男と三男は、歌を歌いながら元気になったベブを引いて他の兄弟たちとともに退場します。二男は父と母を連れて退場し、父に一服させます。ここで、二男が父のタバコに火をつけるやりとりがコミカルに描かれています。鼻ひげに火をつけたり、下腹に火をつけたり。結局は、父にゆっくりタバコを吸わせず、家に無理やり連れ帰るというオチです。

第4部 アトヤマ

全員による奴踊り（やっこおどり）となっています。

〔CAST〕



テチヨ（父）



カメジヨ（母）



スロアンジョ（長男）



ミアケアンジョ（次男）



チョカタロ（三男）



チョンチョコベ（他の兄弟）



ヤマの扮装

<参考文献>

- 『宮崎県史 資料編 民俗2』（宮崎県、平成4年）
- 『都城市史 別編 民俗・文化財』（都城市史編さん委員会、平成8年）
- 『三股の民俗芸能』（三股町民俗芸能誌編さん委員会、平成3年）
- 『第三 三股の研究－微視の郷土史－』（桑畑初也、平成19年）

<写真提供>

三股町役場 総務課 秘書広報係

<資料作成：平成30年5月>

三股町教育委員会 教育課 生涯学習係